

JR東海 ユニオン いつまで 沈黙を続けるのか 2WAY コミュニケーションの充実とは？

JR東海ユニオンは休日勤務や新型インフルエンザについて一向に気にかける様子もなく、沈黙を続けています。

ユニオン本部や地本、分会の役員は総対話集会等でさかんに「ユニオントライ」や「2WAYコミュニケーション」を強調しているそうです。4月27日にユニオン青年委員会が独自に「緊急安全集会」を開いて「絶対の安全を誓おう！と意思統一!!」をしています。しかしこの「緊急安全集会」は4月19日に発生した名松線の車両逸走事故を受けて、特に若い組合員に対して、ミスをするな、ミスは本人の責任だという恫喝の意味しか持たないのは論を待たないようです。

ユニオン本部は「ユニオントライ」を新たな中長期目標と言い、運動の原点である「分会」活動をいっそう活性化させていこう、と言っています。中長期目標・リニア建設のためには目の前にある休日勤務と休日呼び出しや新型インフルエンザ感染防止等々には口を出さない、ということなのです。

職場や乗務先で、多くのユニオン組合員から「最初は大丈夫と思ったが、最近3徹はきつい」「感染防止には車内改札の中止だ」等々の声が聞こえています。

ユニオン組合員のみなさん！

ユニオン本部と同じく みなさんも沈黙ですか？

5月はユニオンの「第3次組織強化月間」ですが、残念ながら「対話集会で寄せられた組合員からの声、その一つひとつを、きめ細やかに集約・分析し実現に向けて特に『分会で解決できる課題は、分会で取り組む（下線筆者）』べく、実施に向けて取り組もう」（ユニオン本部「組織情報」No614）と、馬鹿にされています。本当の2WAYコミュニケーションの充実、を求めましょう。

物言える ユニオン組合員・国労組合員のみなさん！

会社から「信頼できる組合」と言われていては駄目です。しっかり「労働組合として存在感」を一人ひとりが示そう